

## 黒毛和種繁殖における哺育育成牛の損耗防止対策

繁殖農家 1 戸(成牛 25 頭飼養)の哺乳子牛を対象とした疾病の損耗防止策について検討した。内、顕著な改善が見られた 1 戸の疾病発生概要は、7 日齢～1 ヶ月齢に下痢症状を呈し、また離乳後の 3～6 ヶ月齢にかけては呼吸器病を発症するなど、これらは通年で見られた。調査結果から、子牛血清中の IgG が 20 mg/dl と適正值(30mg/dl 以上)に比べ極めて低い値を示していた。このことから、子牛疾病の主たる要因は初乳からの免疫獲得不足と判断し、この改善のため粉末初乳製品の活用と母牛の飼料給与改善の両面による子牛 IgG の充足を図った。また冬期の保温対策として保温ランプを設置した。その結果、取り組み前は疾病罹患率 100%、死亡 6 頭であったものが、対策の成績では罹患率 6.6%、死亡 0 頭と著しい改善効果が得られた。